

仙台経済圏300万人の情報誌

飲酒運転根絶へ 県警が一斉検問

仙台経済界

2023
1-2月号

定価 690円

使用済み
天ぷら油で
重機が動く



地球温暖化対策 待ったなし

【レポート】監視カメラをめぐる仙台事情

【レポート】高まる「ふるさと納税」人気、自治体模索

使用済み
天ぷら油で
重機が動く



特集

地球

温暖化対策 待ったなし

今号の特集はカーボンニュートラルをテーマにした。地球温暖化による気候変動、災害の増加、生態系の変化等、さまざまな問題が取り沙汰されているが、カーボンニュートラルの実現とは何か、どのようなことが必要なのか。県内企業はどんな取り組みを行っているのか。積極的な企業は「宮城県の企業は、遅れている」と懸念する。

カーボンニュートラルが注目され始めた発端のひとつは、地球温暖化だ。1997年京都議定書により温室効果ガスの削減目標が、2001年ボン合意やマラケシュ合意で削減実施のルールが定められた。その後も国際会議等で議論が交わされ、15年パリ協定が採択。翌年、日本は地球温暖化対策のための総合計画を策定した。

これらと前後して国内では温暖化の影響とみられる異常気象が報告される。気象庁の発表は観測史上初が相次ぎ、「ゲリラ豪雨」「爆弾低気圧」など気象と戦時を思われる表現が組み合わされ流行語にもなる。

そして18年、臨時会見の

気候変動は 命に関わる災害

カーボンニュートラルを改めよ、といわれているのと同義。そのため18世紀のそれとは方向性が異なるものの、カーボンニュートラルに向かう今を「産業革命」と捉える向きもある。

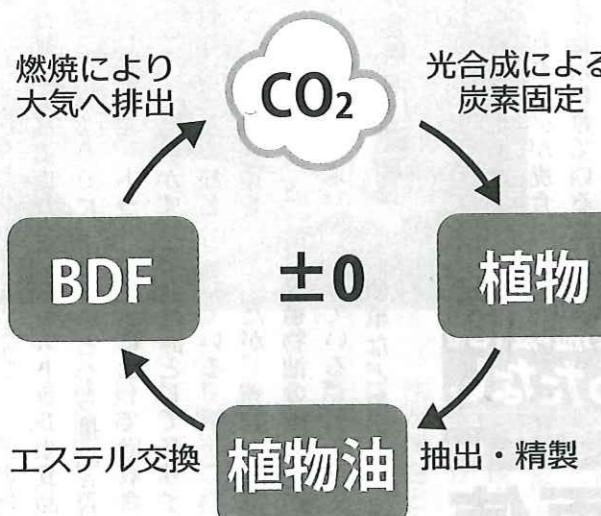
省し、今すぐその価値觀を改めよ、といわれているのと同義。そのため18世紀のそれは方向性が異なるものの、カーボンニュートラルに向かう今を「産業革命」と捉える向きもある。

カーボンニュートラルは環境負荷を減らし温室効果ガス実質ゼロに近づけることを目標とする。だが、このカーボンニュートラル実現は、これまで当たり前とされてきた行為と相反するものもある。われわれは車で移動し、産業は大量に製品を製造し消費者社会を支え、家庭は結果的に安易な買い物等でロスを生み出し、ごみ焼却のエネルギーを使う。つまり化石燃料を容赦なく燃やし、二酸化炭素などの温室効果ガスを増やし続け、地球温暖化へと導いた。それを反

は、何をおいても取り組むべき問題。そう語る人がいる。己の、自社の利を優先して人類が滅ぶことを許容するなど、あり得ないと。その一方で、対岸の火事とはいわないが、取り組む余裕が今は無い、という人もいる。コロナ禍や物価高、サプライチェーンの混乱等により現状維持が精一杯だと。圧倒的多数はこちら側ではないだろうか。

カーボンニュートラルは環境負荷を減らし温室効果ガス実質ゼロに近づけることを目標とする。だが、このカーボンニュートラル実現は、これまで当たり前とされてきた行為と相反するものもある。われわれは車で移動し、産業は大量に製品を製造し消費者社会を支え、家庭は結果的に安易な買い物等でロスを生み出し、ごみ焼却のエネルギーを使う。つまり化石燃料を容赦なく燃やし、二酸化炭素などの温室効果ガスを増やし続け、地球温暖化へと導いた。それを反

カーボンニュートラルのイメージ図



二酸化炭素排出ゼロの略図（資料をもとに本誌作成）

BDFは大気中に存在した二酸化炭素を吸収してできた植物油を利用して、燃焼しても二酸化炭素の排出がゼロとみなされ、地球温暖化防止につながる（図表参照）。

そのうえ、軽油の主成分が炭化水素であるのに対し、BDFは脂肪酸メチルエステルで、スズや硫黄酸化物が出ないため排気ガスがクリーンになる。廃棄する使用済み天ぷら油からほぼ同じ量のBDFを製造できる（図表参照）。

同社は原料となる使用済み天ぷら油を宮城県内、隣接3県（福島、山形、岩手）の飲食店やホテル、旅館、給食センター、弁当工場など、計900カ所から定期的に回収している。また、大崎市、登米市、大衡村など。

きることからサイクル率が高い、などの理由で、地球温暖化防止に向けた世界的な枠組みや数値目標に対する取り組みや数値目標に対する取り組みが注目を集めている。

（有）千田清掃（大崎市・千田信良代表取締役）は2005年、社員の提案で廃油を精製して作るバイオ燃料（BDF）を精製して作るバイオディーゼル

イオディーゼル燃料を化石燃料の代替燃料として使用する取り組みが注目を集めている。

再生可能エネルギーの優等生

地球温暖化対策が世界的に喫緊の課題となる中、バ

イオディーゼル燃料を化石燃料の代替燃料として使用する取り組みが注目を集めている。



燃えるゴミが再生エネに

廃棄食用油からBDF

（有）千田清掃バイオディーゼル



B100で稼働する重機

（有）千田清掃（大崎市・千田信良代表取締役）は2005年、社員の提案で廃油を精製して作るバイオ燃料（BDF）を精製して作るバイオディーゼル

F事業に乗り出した。今では1日、1000㍑を生産。自社の業務車や発電機に利用し、外部供給もしている。

「環境に優しいBDFは、

地球温暖化防止に向けた再

生可能エネルギーとして優

等生だが、この事業は全自

動の精製プラントを導入し

て終わりではない。不純物

の除去や精製過程の見直し

など、当初は課題山積だっ

たからこそ軌道に乗せるこ

とができた」と、これまで

振り返った。

BDFは二酸化炭素排出ゼロ

BDFとは、植物油から作られるバイオ燃料（BDF）は、植物油は粘度の高いグリセリン部分を取り除いている。使用済み天ぷら油は遠心分離機で不純物や水分を取り除き、メタノールとアルカリ性の触媒を加えて、グリセリンを分離し、BDFを取り出す。

日本ではリサイクルの観点から、使用済み天ぷら油とメタノールを化学反応させ、精製する方法が普及している。使用済み天ぷら油は遠心分離機で不純物や水分を取り除き、メタノールとアルカリ性の触媒を加えて、グリセリンを分離し、BDFを取り出す。



右から使用済み食用油とB100、B5

ど、行政による市民回収にも対応し、1カ月あたり3万㍑を集め、BDF100%燃料（B100）を2万㍑生産している。調達コストは人件費の他、輸送費、回収ボックスの設置費など。

主力商品は、軽油に5%のBDFを混合したB5混合軽油。品質規格（JIS規格K2390）が定められているもので、主に仙台市内の運送・物流会社が利用、月に3万㍑出荷する。1㍑あたりの価格はB5、B100ともに軽油とほぼ同じだが、企業の環境対策として人気を集め、とくにB100は大手建設会社の工事現場で使用する重

機に採用されているとい

う。こちらは月に5000㍑を出荷する。

同社はBDFの利用を拡大しようと22年3月、B100を燃料にする重機のレンタル事業も開始した。高品質、高純度なB100はトラブルなしで、カーボンニュートラルを実現するとあって、企業ニーズは高い（写真参照）。

「12月には軽油にBDFを30%混合するB30の試験運用が始まる。どこまで

建築・不動産・土地活用のことなら

TAISEI HOUSING

住まいのライフ

株式会社 大成ハウジング

アパート・マンションをトータルプロデュースします！

■本店／仙台市若林区六丁目字左近堀15
■仙台西支店／仙台市青葉区栗生7丁目4-3

TEL.022-287-3226

設計・施工 建築
賃貸・売買 仲介
一括・一般 管理

仙台賃貸.jp 検索

ドローンの損傷、ゆがみ、動作異常などに気付いたら!!

ヒトロボでメンテナンス

修理・定期点検実施中!

フレーム、プロペラ、モーター、ジンバル、バッテリー etc. 修理・定期点検実施中!

※安心安全にご使用いただく為に、ヒトロボではDJI製ドローンの定期的な整備点検を推奨しております。

国交省HP掲載 ドローンスクール

Hito-Robo ヒトロボ株式会社

仙台市若林区御町3-2-3 TEL.022-290-3974

スクール受講のお申し込み
最新ドローンの購入・修理等
詳しくはWEBをチェック!

